第3講　目録検索

p.33-51

このコマで理解して欲しいこと

1. 検索の流れと検索の仕組み
2. 「重複登録」をしないための検索方法の修得
3. 求める書誌レコードかどうかを同定する重要性

このコマの進め方

1. 目的についての説明
2. WebUIPへログイン，ブラウザのボタンを使用しないことを注意する（講義要領1参照）
　　*会場のPCの操作に関して，特に注意事項があれば付け加える.
3. テキストの例題と検索課題集を使用して実習
4. その他，検索に関連する事項を説明

<時間配分の目安>

	85分
SL教材「目録検索」復習・テキスト例題	20分
課題集実習・解説	65分

説明のポイント

講義部分は事前学習となり，講習会では実習中心にポイントを復習する.

★講習会中に使用するWebUIPをここではじめて使うので，p.35からの「検索の実際」を全員で操作しながら，ログイン方法，注意点を説明する.

★実習を行う際，前の検索条件が残っていて正しい検索結果がでないことがあるので，次の課題に進む際には，初期画面に戻るよう注意する.

以下，テキストの解説：テキストの検索例題1～6に時間をかけると，課題集の実習時間が不足するので，解説を満遍なく行う必要はない．また，4.検索対象ファイルから，7.書誌レコードの同定については課題集実習のまとめとして使用するとよい.

p.33-34	**1. 検索の目的　2.検索の種類** ● 検索の目的を確認し，注意を促す（検索なら知っている，またはネット検索等で慣れている受講者が多いので，インデクス検索の違いを強調する）. ➡テキスト関連箇所　p.8-11（検索の仕組み），p.17（検索用インデクスの切り出しについて）

p.35-45	**3. 検索の実際** ● 操作を実際に体験し，操作の流れを理解するように伝える． ● 例題「世界の民族」の検索を，テキストに沿って全員で，画面の見方等を説明しながら，実際に操作する． ● （例題1～3）ヨミ，漢字の単語，表記形からの書誌検索を行い，それぞれ検索簡略表示でヒットしたものの一覧を確認するとともに，検索キーを何にするかによる検索結果の違いを比較しながら進める． 例題 3 で「ベーシック世界の民族・宗教地図」がヒットすることについて，VT:VT:世界の民族・宗教地図‖セカイ ノ ミンゾク・シュウキョウ チズ と記述されているからヒットしていると説明を加えることもよい． ● （例題4～6）所蔵リンク参照，リンク参照，著者名リンク参照で，p.34で説明した内容を実際に確認する．操作上は既存のリンクをたどっているように見えるが，リンク参照という検索だということに注意を促す． ➡ p.4-5 のレコード間のリンク関係図で事前学習の復習． ➡ p.25-26 で，著者名リンク参照と書誌検索の著者名検索の違いについて，典拠レコードの機能の復習． ● リンク参照ではどこの画面にいるか迷ってしまう場合があるので，SERIAL, SHOLD, NAMEというファイル名にも注目させる． ● 詳細表示画面で，必ず書誌レコードの見方（各フィールドにどのようなデータが記述されるのか）を情報源と照らし合わせて確認しておく．
p.46	**4. 検索対象ファイル** ● 総合目録データベース（BOOK）は，和資料・洋資料の区別はないが，参照ファイルは和洋ごとに異なる場合がある．自動的に検索する参照ファイルの設定はクライアントにより異なることを説明する． ➡ p.2 や p.6 で参照ファイルについて事前学習の復習．
p.47-48	**5. 検索キー** ➡ 検索画面の構成と検索キーの指定の方法を確認する．5.3 の表はサーバが行っている処理なので，クライアントに左右されない共通した事柄の説明である（概要は SL 教材でも触れられている）．（下記に講師向け解説） ➡ p.8 正規化，p.9 漢字統合インデクスで事前学習の復習． ● 受講者の自館のクライアントがどのように動作するかを，帰ってから確認するよう講習会では伝える．
p.49-50	**6. 検索上の注意点** ● テキストで挙げてある注意点を検索課題集を使って実例で示す方法もある． ● 分かち書きとヨミに関しては『目録情報の基準』の参照箇所を案内する．

p.51	**7. 書誌レコードの同定** ● 検索課題集実習のまとめとして，押さえるべきポイントである．検索において，ヒットしたものが手元の資料の書誌であるか判断できることが重要である．（SL教材でも強調している）． ➡ p.19 で図書書誌レコードの作成単位について事前学習の復習． ➡『コーディングマニュアル』の該当箇所，新規レコード作成の指針 0.4.1（親書誌は 0.4.2）

検索実習（検索課題集使用）

検索キーとして何が有効なのかを実習を通して把握することを目的としている.

- 数をこなせばよいというものでも，何か検索結果が表示されればよいというものでもなく，有効な検索キーを調べる「実験」だと思ってやってもらう.
- 必ず，情報源と照らし合わせて同定し，うまく検索できなかった場合にはなぜ検索できなかったのか確認するように伝える.
- いくつかの検索キーにより複数回検索して，その結果を確認するということも行ってみるとよい.
- ノーヒットの例（課題7，19，22）を使って，あるものをヒットさせるよりないことを証明する方が難しいこと，また，実際の業務では，ないという判断のもとに書誌を作成するということに触れる.

時間を決めて各自のペースで進める場合の進め方

ノーヒットの課題があることを前もって説明しておくと，実習中の受講者の混乱が防げる.

各々のペースで，全部できなくても構わないことを伝える.

ヒット結果だけを問題にして，書誌レコードをきちんと同定していない受講者には，注意を促す.

実習中，受講者の間で共通した誤解などがある場合は，適宜中断して補足説明を行う.

実習後，受講者がつまずいていた点を中心に説明する.

ポイントの解説とあわせて，一斉に行う場合の例

① ISBNでの検索：　ISBNは「国際標準図書番号」として出版者が一意に付与した番号なので，検索が簡単にできることを示す一方，誤植などの場合もあるので，ISBNで検索してヒットしなかったからないとは判断できない点を解説.
ISBNでヒット＝課題1(和)，課題16(洋)
ISBNでヒットしないが他の検索キーでヒットする＝課題2(和)，課題21(洋)

② 情報源の見方：　どの部分が何の検索キーとして有効かを考えることを身につける．和図書では分かち書きのゆれや，ヨミの問題を実際に検索して試してみる.

- タイトルでの検索

課題3(和)，課題4(和)：「コンピュータ・グラフィックスがひらく」「数学の初歩からの」がタイトルの一部かわからない時は，単語単位の掛け合わせが有効
課題6(和)：「ロヂウラ」だとヒットしない（ヂ→ジの例を示すと印象に残る）.
課題10(和)：「史的唯物論」を1語だと考える人が多い.
課題15(和)：「シンセダイ」か，「シン　セダイ」か迷うケースでは，両方で検索する.
課題30(洋)：「Cumulative Author and Subject Indexes …」は何か考えさせる.

- 著者名での検索

課題5(和)：「谷喬夫」だとヒットしない．「谷喬夫著」「谷喬夫*」「谷　喬夫」ならヒットする.
課題6(和)：　p.15にある執筆者ではヒットしない場合が多い.

③ 階層を持つ場合の注意点：　子書誌のタイトルと親書誌のタイトルの双方を使って検索するとBOOKにはヒットしない（参照ファイルではヒットすることについては，『目録システム利用マニュアル』付録C（インデクス作成仕様）参照）.
課題9～12(和)，課題26～27(洋)

④ 特殊な文字や記号の扱い：　旧字体，デリミタ，音標符号付き文字の復習
旧字体＝課題6(和)：　角田「榮」
デリミタ＝課題14(和)：「/」「・」

⑤ 便利な検索キーや検索機能：　テキスト例題で使った以外の検索キーを試す．
前方一致の「＊」
FTITLE（フルタイトルキー）＝課題8(和)，課題16(洋)，課題21(洋)：「化学」「Monsoons」「Econometrics」と，一般的な語のみでなるタイトルや1単語のみのタイトルの際に有効．
AKEY＝課題17(洋)，課題24(洋)：洋資料については，タイトルの単語の冒頭3・1・1・1だけで効率的に検索ができる（和資料のAKEYはあまり使われない）．ISBNと同様に効率的ではあるが，ヒットしなかった場合は別の検索キーでも検索してみる．（単語が4つ未満の場合は，3.1や，3.1.1のみ，タイトル関連情報等が続く場合はそれも含む）

⑥ BOOKにはなく，参照ファイルにある，またはノーヒットの例：　クライアントによってBOOKになかった場合に，自動的に参照ファイルを検索した結果が戻ってくる仕組みがある．WebUIPの場合については付録6に示す．
「ない」と判断することの方が「ある」ということより難しく，登録総論で説明した「なければ新規に作成する」際に，検索の仕組みを知って，正しく判断ができることを強調する．
参照ファイルにヒット＝課題3(和)，課題4(和)，課題18(洋)，課題25(洋)など
総合目録データベースにも参照ファイルにもヒットしない＝課題7(和)，課題19(洋)，課題22(洋)

⑦ バランスしない書誌構造の例：　親書誌レコードに所蔵登録する場合があることに注意（SL教材でも修得済み）
課題13(和)：　その1は固有のタイトルがなく，VOL:1988，その2は「情報化白書」の子書誌「90年代情報化の展望」

⑧ 書誌同定：　必ず手元の資料と照合して同一とみなせるかどうかを判断する．
版＝課題20(洋)

【講師向け解説】　（講師の方への解説です．受講者に説明する必要はありません．）
検索対象ファイルについて
付録6にWebUIPでの検索対象ファイルの解説がある．WebUIPでは，総合目録データベースに登録された資料は，和洋区別なく検索できるが，参照ファイルは和洋で設定が異なるので，あらかじめ選択しておく必要がある（デフォルトは和資料なので特に洋資料の場合は注意すること）

ストップワードとデリミタについて
- ✧ 「検索語中のストップワードを除去したり，デリミタをスペースに変換したりしてサーバに送信」という処理は，クライアントごとに異なる（必須処理ではない）．
- ✧ ストップワードはサーバでは検索用インデクス生成の際には除去されるが，検索キーから除去するかどうかはクライアントに依存する．クライアントで処理をしていない場合は，検索キーに指定すると正しく検索されない（入力してはいけない）．
- ✧ デリミタは検索用インデクスから除かれており，サーバで置き換えを行っていないので，クライアントで処理をしていない場合は，検索キーに指定すると正しく検索されない（入力してはいけない）．（課題 14「CP/M-86 入門」の「/」はデリミタ，「-」は踊り文字）
http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/CAT6/furoku_d.html 『目録システム利用マニュアル』付録 D（特殊文字・記号）参照